

平成30年度 一般選抜中期日程/経済学科・公共マネジメント学科 英語  
出題の意図と解答の傾向

I

問1

【解答例】 the fashion industry (15点)

【解答の傾向】

“no fan of the fashion industry” としている解答多数。

⇒“fashion industry”への“bitter word”ではなく、

“fashion industry の fan でないこと”への“bitter word”になってしまう。

問2

【解答例】 綺麗になりたい (ならなければならない) というプレッシャーと折り合いをつけた (20点)

【解答の傾向】

① 「it」の指示内容を問うているため、「be beautiful」の訳出で5点、「pressure」の訳出で5点とし、併せて10点とした。

② 「make peace with」が正しく訳出できていれば10点とした。

《「be beautiful」の訳出について》「キレイになりたい (キレイになれ)」や「美しくあれ」と訳しているものが多数だったが、その他として、「美しくする」「美しくいる (美しくいろ)」「美しくなろう」等があった。一方で、「be」をしっかり訳さず、単に「美しい」という形容詞で、あるいは「美 (美しさ)」という名詞で訳出しているものも散見された。

《「pressure」の訳出について》そのまま「プレッシャー」と記載している答案がほとんどだったが、「圧力」と記載しているものも多かった。その他として、「圧」「圧迫」「重圧」「衝動」「負担」「要求」「強迫観念」「強制」「緊張」「押しつぶされる」等の訳出もあった。その他、「喜び」という回答もあった。おそらく「pleasure」の見間違いかと思われる。なぜか「血圧」という珍答もあった。

「it」の指示内容の正答率は比較的高かったように思われる。ただ、「美しくなることへのプレッシャー」ではなく、「ファッション業界からのプレッシャー」「より若い女性からのプレッシャー」「若い時のプレッシャー」「若い女性としてのプレッシャー」「若い時のほうが良いというプレッシャー」等、何からのプレッシャーなのか適切に書けていない答案も目立った。

なお、「it」の指示内容の誤答例としては、直前の「got me down」(憂うつにさせる)で訳出しているものが多かった(とりわけ、「憂うつにさせるプレッシャー」としているものが多かった)。その他として、さらに前の「fashion industry」(ファッション産業)や後文の「digital manipulation」(デジタル加工、写真加工)だと誤解している答案もしばしば見受けられた。

《「make peace with」の訳出について》「折り合いをつける」と訳出できていたのは僅かであった。他に、「うまく付き合う」「うまく向き合う」「うまく対処する」「調子を合わせる」「共に生きる」と訳出しているものがあつた。受験生には難しかったのか、誤訳がほとんどであった。

誤訳の例として… make の直訳:「形づくる」「作り上げる」「確立させる」等。中でも、「プレッシャーが私をつくった」や「ファッション業界で居場所をつくった」とする誤答が多かった。(余談だが、「have made」を「作られる」と訳出し、受動態と勘違いしていると思われる答案も数多く見られた。)

peace の直訳:「平和にする」「平和をつくる」「自分に平和を取り戻す」「平穏をつくる」「穏やかにさせる」「やすらぎをつくる」「温和にさせる」「平気である」「幸せにする」「幸せをつくる」等なぜか「ピラス」という和製英語の珍答もあった。

その他の誤訳として、以下のようなものが見られた。・「私の一部になる」「体の一部になる」「自分の一部をつくる」「一つのピースになる」のように、「piece」と間違えている答案が多数見られた。・「ピースをつくる」というものもあり、「pace」と間違えている。その他、「解放される」「地位をきづく」「嬉しくなる」「逃れる」「美しくなる」「ファッションをつくる」「糧とする」「願いをもつ」「安寧をつくる」「距離を

置く」など訳出は様々であった。

最後に、上記の①と②に全くかすりもしないほどの的外れな答案もいくつか散見された。問2は受験生の英語力の出来・不出来がはっきりした問題であったと思われる。

### 問3

【解答例】 list (15点)

【解答の傾向】

(her) criticisms としている解答多数。

⇒1. “one”という単数形で受けていること。

2. “lengthy”という形容詞との関係。

以上から、直前の“list(of grievances~)”が適当。

### 問4

【解答例】 ものすごく痩せていること (20点)

【解答の傾向】

○多かった間違い例

- ・「肌をきれいにすること」、「きれいな肌になる」など
- ・「肌を多く露出する方法」「(ファッションモデルのように)露出が多い」
- ・「(多くの若者に)影響力の与えられるファッションモデルになること」
- ・単に、「ファッションモデルになりたい」
- ・単に、「ファッションモデルになること」

○減点例

- ・(ファッションモデルのように)「非常に痩せたい」と、直前の「want to」まで訳し込んでいる場合に減点
- ・「非常に細く美しく痩せていること」など「美しく」といった余分な内容を含んでいる場合に減点
- ・単に「ファッションモデルが非常に痩せていること」など主語が「ファッションモデル」となり、不十分な訳である場合

### 問5

【解答例】 (下線部訳) 最近のヨーロッパの調査で、10代や若い女性たちの間で食欲不振の割合が最も高い国と、ファッション雑誌の発行部数の高い地域とは相関関係があることが明らかになった。(30点)

【解答の傾向】

- ・European Study : ヨーロッパ人(欧米)の学問あるいは学者といったような解答が目立った。考えられる理由: ヨーロッパ人という言葉自体存在するか怪しい。ヨーロッパの調査・研究はヨーロッパの人々が主体となるとは限らない(アジア人でもヨーロッパの研究に携わる)。欧米の米はアメリカでするのでヨーロッパに含まれない。
- ・Anorexia : 英語をそのままローマ字で表記したものやカタカナに直しているものも散見された。注を利用して訳しているものが多数。

※難度の高い単語である。ある程度の意識は許容したが、長く書けばどれかに妥当する場合があるため、部分点にとどめた。どこまで記すかが問題。

- ・correlated with : ~の国と~の地域が一致する、~の国は~地域であるという解答が目立った。

※相関関係がある、という明確な正答は多くないため、関係する程度であれば、正解にした。相関関係は部分一致というニュアンスもあるため、「一致」、「である」も完全な誤答とはいえないため、部分点は与えた。

### 問6

【解答例】 ファッション業界がなかなか行動を起こそうとしないこと (20点)

【解答の傾向】

出題の意図は英文の意味を分かりやすく日本語で説明することであり、drag one's feet(足を引きずる)を直訳するのではなく、文脈に沿って説明する。

- ・ industry を、「工業」と訳出しているものが 1 割程度みられたが、この文脈には不適合である。
- ・ drag を drug と取り違えて、「薬物中毒になる」という解答が目立ち、3 割程度あった。
- ・ 仮に「drag one's feet」を知らなかったとしても、直前の文脈を丁寧に読めば、正解に近づくことができる問題であった。

## 問 7

【解答例】 This law also required designers to keep accurate track of the models' working hours and payments. (30 点)

### 【解答の傾向】

- ・ require の代わりに demand を使うものも多数見受けられたが、demand は目的語として人が来ることはない。
- ・ 「記録を残す」は解答例のように keep accurate track とする必要はなく、動詞の record を使ってもよいが、「残す」を leave や remain としているものが予想よりはるかに多かった。基本的な動詞の使い方が身につけていないと考えざるを得ない。
- ・ 予想していなかったスペルミスとしては、law を low としているもの、correct を collect としているものが目立った。

## 問 8

【解答例】 2・3 (各 5 点)

### 【解答の傾向】

「5」「6」を正しいとする解答多数。

⇒ 「5」“Body Mass Index”は年齢でなく体重についての規制。

「6」“chaperone”なしで働けるようにした」のではなく

「“chaperone”を付けて働けるようにした」

## II (40 点)

### 問 1

#### 【出題の意図】

この問題を通じて受験生は意見や理由を明確に述べられるかどうか、限られた時間内にアイデアを十分に展開させられるかどうか、段落を論理的に構成できるかどうか、また受験生の英語が十分に通じるかどうかを見た。「内容」、「構成」、「言語力」を中心に、40 点満点で解答を総合的に採点した。

「内容」については、意見や理由、詳細を十分に説明し、論理的に展開させているかを中心に評価した。

「構成」については、論理的展開になっているか、そうさせるための discourse markers や接続詞が正確に尚且つ効果的に使われているかどうかを中心に評価した。「言語力」については、解答を読んで意味が理解できるかどうか、文法・語彙・綴り・句読点が正確に適切に使われているかどうか、受験生は難しい言い回しや語彙を使おうとしているかどうか、使った場合はどのくらい正確に使えたかなどを中心に評価を行った。

#### 【解答の傾向】

This year, the question asked examinees to both give their opinion about the issue in the question, and to explain what they thought could be done about it. While there was not a lot of variation in the answers in terms of the ideas presented, nearly all the examinees answered the question fully.

Unfortunately a small amount failed to give both responses.

Good responses addressed the problem, explained how the examinee felt about it, and outlined possible solutions with a short concluding statement to summarize.

Common problems included not being able to rephrase the problem correctly. Many of the examinees started their answers with something like:

*“I think the supermarket in our area will close down on August 1st 2018 due to poor sales is bad”*

A better way to begin would have been something like:

*“I think the closing of the supermarket in our area is bad”* or

*“I don’t want the supermarket in our area to close”*

Grammatical errors that changed the logic of the answers were common:

- *“the supermarket does not sell what people want because it will close down”*
- *“people in small towns will become more difficult to live”*
- *“It is because I have two reasons...”*
- Use of *“This is why...”* rather than *“This is because...”*
- *“I think that I don’t want to close down the supermarket”*

There were also a number of cases of *“had better”* being used inappropriately. *“Had better...”* is used to give strong advice, usually with the idea that some negative outcome will result if the advice is not followed. A number of softer alternatives are available, such as *“why don’t you...”*, *“should...”*, and so on, and in most cases these are more appropriate.

Many examinees had problems with the correct use of prefixes, writing *“unconvenient”* instead on *“inconvenient”*, or *“unuseful”* instead of *“not useful”*.

Another common problem involved mistaking the order of verbs and nouns, for example referring to *“not drive cars people”* rather than *“people who can’t drive”*

Inconsistent use of personal pronouns was common, for example:

*“I think that if the supermarket in your area closes down it will be hard for me”*

Use of determiners was also a problem; for example confusion with the use of some/something was common. There were many sentences like *“I want to buy something food”* rather than *“I want to buy something”* or *“I want to buy some food”*.

---

※平成30年度一般選抜公立大学中期日程入学試験におきまして、表記に誤りがございましたので、以下のとおり訂正いたします。

問題文 1 3 行目

【誤】(4) be that way

【正】(4) be that way

問題文 1 4 行目

【誤】Not only does this desire lead to self-identity “unobtainable image” problems;

【正】Not only does this lead to self-identity “unobtainable image” problems;